

令和7年度 緑化推進運動ポスター審査会 作品講評

長崎県教育委員会義務教育課 増山雄一郎

長崎県人権・同和対策課 森 法子

<小学校の部門>

最優秀作品「鳥たちがほっこり集う大きな木」は、点描による色の明るさや鮮やかさの変化をいかし、空に向かって勢いよく伸びる枝、光を受け止め輝く葉、大地にどっしりと根を下ろす木の力強さをしっかりと表現している。太い幹や枝ぶりを画面いっぱいに描き出す曲線の美しさは、大樹の生命力を感じさせる。「みんなにっこりほっこりゆっくりあつまれる、大きな木を描きたかった」という作者の思いが、大樹の存在感と動物たちの愛らしい姿により明るく優しい雰囲気描かれており、作者の瑞々しい感性を感じる作品である。

優秀作品「広がれ緑」は、「緑いっぱいの国になってほしい」という作者の願いを巧みな構成と柔らかな色調で表現した秀作である。画面の世界では紙飛行機が風に乗って双葉を運ぶとともに、近代的な建物群と樹木が共存し、緑に囲まれた未来を願う作者からのメッセージを強く感じる。見る者に「この紙飛行機が私たちの未来にも飛んできてほしいな」と感じさせてくれる作品である。

奨励賞の3作品はいずれも、生き物や人たちが集う緑豊かな自然の美しさ、豊かな環境を守りたいという願いを、明るい色合いと工夫された構成で描いている。これからも優しい心で世界を見つめ、のびのびと絵を描くことを楽しんでほしい。

<中学校の部門>

最優秀賞作品「虫から見た景色」は、樹木を見上げるような構図が、森林に生きる小さな命の存在を感じさせ、自然の力強さや多様性を巧妙に伝えている。木肌に生息する苔が木漏れ陽の光と重なり、風にそよぐ葉は太陽の光を透かして多彩な緑を放っている。小さな虫の視点から、私たち人間も大きな自然の一部なのだと考えさせられる作品に仕上がっている。

優秀賞作品「緑の妖精～美しい森林に現る～」は、緻密に表現された森林植物の緑色と、その中に現れた妖精の赤色の瞳が対比し、ひと際目を引く作品である。森林の風景と一体化しながらも、不思議と存在感をもって浮かび上がる妖精の姿は、繊細な縁取りによるレイヤー効果が成す技であり、見る側に緑の妖精と対峙しているような感覚を与える。様々な工夫により、更に強いメッセージ性を持つ作品となっている。

奨励賞の作品もそれぞれに、緑が映り込んだ水滴のリアル感あふれる表現や、ソルトテクスチャー（或いはバブルアート）による「はじき」技法、陰影に色を帯びた反射光や環境光の活用など、新しい技法を巧みに生かして独特な世界観を生み出している。作者たちがイメージする森林の貴重性や自然の雄大さがよく伝わる作品が揃った。

<高等学校の部門>

最優秀賞作品「緑いっぱい広げよう」は、森に苗木を植樹する2人の若者が描かれ、未だ葉も少ない若い木枝や森の風景が、若者と同様にこれから未来に向かって成長していくであろう期待を感じさせる。光の中に舞う小さな蝶や、木枝の間から覗く小動物と小鳥たちが、静かに2人を見守っているような構図からは、小さな力が集まり、時間をかけて成長していく森林の未来が豊かに想像でき、見る側に環境緑化意欲を与える作品となっている。

優秀賞作品「動植物も人間も幸せな世界に」は、どんぐりを頬張るリスの表情と、それを大事そうに包み込む人の掌の表現が絶妙にマッチし、作品全体に温もりを与えている。周りの風景に描かれた若い苗木を、誰がどんな思いで植樹したのか、森林を育てる全ての人の深い愛情と自然愛を大切に伝える作品となっている。

奨励賞作品にも、成長した樹木から自然の恵みをいただく表現に工夫が見られ、全体を通し、高校生の自然環境に対する熱い思いが伝わった。